

13. 県中北部におけるナシ樹体ジョイント仕立て用の 「幸水」1 年生苗木の生育促進法

1. 背景とねらい

神奈川県が開発したナシ樹体ジョイント仕立ては、未収益期間の短縮、省力や軽労化に優れるため、県中北部産地で導入が始まっています。一方、この仕立て法の導入に際しては新梢長 210cm 以上の苗木を定植するため、産地において苗木を安定的に生産する技術が必要となっています。そこで、県中北部におけるナシ「幸水」1 年生苗木の新梢の伸長促進法を明らかにします。

2. 成果の内容

- 1) 4 月上旬から 7 月中旬まで、地上部を農業用ビニールまたは不織布で被覆すると施設内の日中の温度が上昇します（図 1）。
- 2) ナシ「幸水」の新梢は不織布区において最も長くなり、目標の新梢長 210cm 以上を満たす苗木が生産できます（図 2）。
- 3) 苗木の節間長は施設内で育苗すると長くなりますが、次年度の定植以降の側枝配置には影響のない程度です（データ省略）。
- 4) 地温上昇のためのマルチおよび培地における堆肥の増量については、苗木の生育促進効果が認められません（データ省略）。

3. 利用上の留意点

- 1) 定植後の主枝高および樹間隔の設定にあわせて、台木の長さや接ぎ木位置を調整することで最適な苗木生産ができます。
- 2) かん水は 1 日 1 回（夏季 2 回）行えるよう設備を整える必要があります。
- 3) ナシの樹体ジョイント仕立ては神奈川県の特許技術であり、実施には許諾契約が必要となります。

（果樹研究部）

4. 具体的データ

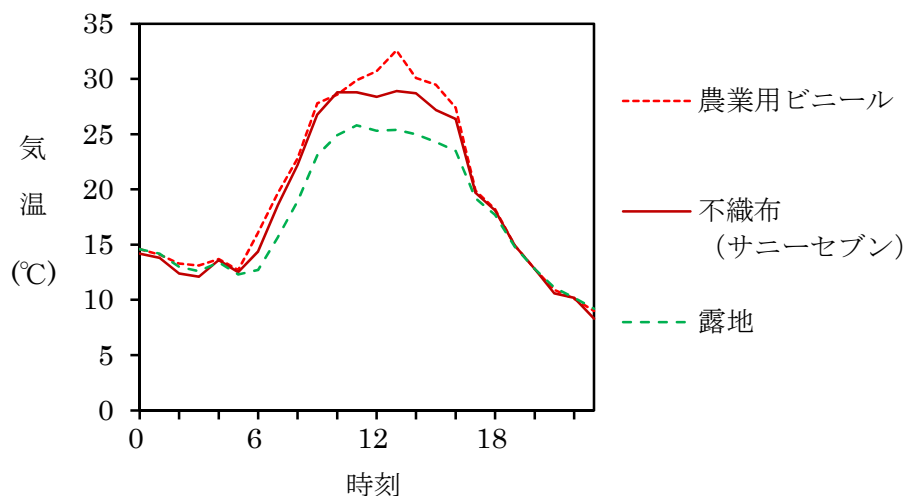


図 1 世羅町の現地ほ場における被覆資材が温度変化に及ぼす影響 (2015 年 5 月 20 日)

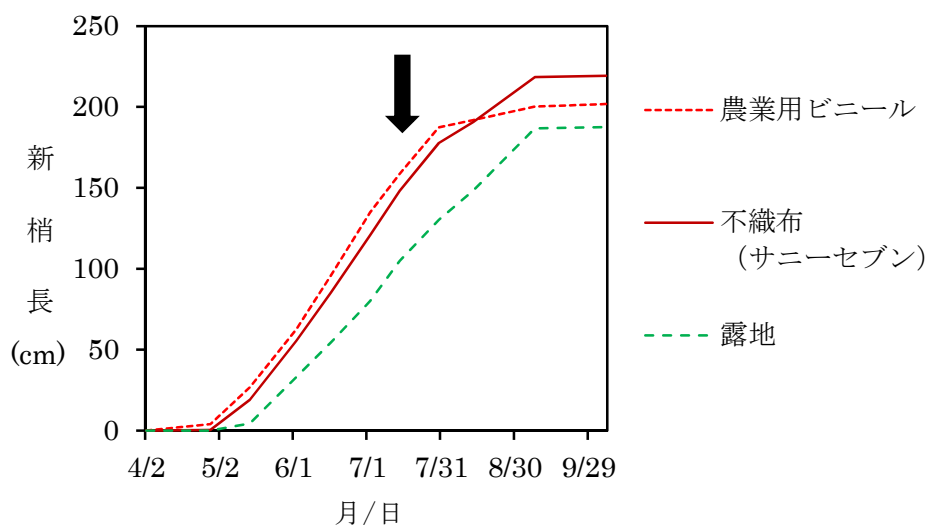


図 2 世羅町の現地ほ場における被覆資材がナシ「幸水」苗木の新梢伸長に及ぼす影響 (2015 年)

- 1) 培地はマサ土：堆肥＝2：1 でマルチなし。
- 2) 露地は苗木の周囲に 2mm 目合いのネットを設置し、不織布区は東レ(株)製「サニーセブン」、農業用ビニール区は 0.1mm 厚を用い、施設の天井および周囲を被覆。農業用ビニール区は、4 月下旬から施設内高温のため、地面から 50cm の高さまでを常時開放し、不織布区および農業用ビニール区は 7 月中旬(図中)に被覆資材を撤去し露地と同様の条件。各資材の光線透過率は不織布が約 57%、農業用ビニールが約 90%。
- 3) かん水はタイマーで 7 月 29 日まで 1 回/日、以降 10 月 5 日まで 2 回/日。